

## 再評価結果（令和5年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課

担当課長名：長谷川 朋弘

<b>事業名</b> 一般国道158号 <small>おおのあぶらさかどうろ いずみ あぶらさか</small> 大野油坂道路（和泉・油坂区間）	<b>事業区分</b>	一般国道 <b>事業主体</b> 国土交通省 近畿地方整備局		
<b>起終点</b> 自：福井県大野市貝皿 <small>おおの かいざら</small> 至：福井県大野市東市布 <small>おおの ひがしいちめの</small>	<b>延長</b>	15.5km		
<b>事業概要</b> 中部縦貫自動車道は、長野県松本市を起点に、飛騨、奥越地方を通過し、福井県に至る約160kmの高規格道路（自動車専用道路）であり、中央自動車道長野線、東海北陸自動車道、北陸自動車道を相互に連絡して広域交通の円滑化を図ることを目的としている。 大野油坂道路は、中部縦貫自動車道の福井県域を構成し、高速道路ネットワークの形成、災害時の代替路の確保、異常気象時の交通の確保を目的とした自動車専用道路である。				
H24年度事業化	H一年度都市計画決定 (H一年度変更)	H26年度用地着手	H29年度工事着手	
全体事業費	1,119億円	事業進捗率 (令和4年3月末時点)	約47% 供用済延長 -km	
計画交通量	10,300台/日			
費用対効果 分析結果	B/C	総費用	総便益	基準年
	(事業全体) 1.2 (1.2) (残事業) 5.7 (2.8)	(残事業)/(事業全体) 745/7,471億円 事業費：533/6,631億円 維持管理費：212/718億円 更新費：/123億円	(残事業)/(事業全体) 4,249/8,823億円 走行時間短縮便益：3,936/8,202億円 走行経費減少便益：270/519億円 交通事故減少便益：43/102億円	令和4年
<b>感度分析の結果</b> 【事業全体】交通量：B/C=1.1~1.3(交通量 ±10%) 事業費：B/C=1.2~1.2(事業費 ±10%) 事業期間：B/C=1.2~1.3(事業期間±20%) 【残事業】交通量：B/C=5.1~6.3(交通量 ±10%) 事業費：B/C=5.3~6.1(事業費 ±10%) 事業期間：B/C=5.7~5.9(事業期間±20%)				
<b>事業の効果等</b> ①高速道路ネットワークの形成 ・中部縦貫自動車道の整備により、大野市と中京圏の新たな高速ルートが形成され、物流搬送等の信頼性が向上。 ・既存ネットワーク（東海北陸自動車道、中央自動車道）を相互に連絡する高速道路ネットワークが新たに形成され、福井市と首都圏のアクセスが大幅に向上。 ②災害時の代替路の確保 ・北陸自動車道では、豪雨や豪雪等による通行止めが、過去8年間で255回発生。 ・中部縦貫自動車道の整備により、北陸自動車道が通行止めとなった場合、中部縦貫自動車道～東海北陸自動車道経由のルートが機能することにより、災害時の代替路が確保される。 ③異常気象時の交通の確保 ・大野油坂道路と並行する国道158号は、過去18年間で大雨、積雪、土砂災害等による通行止めが異常気象時事前通規制区間を中心に67回発生。また、同区間内には、線形不良箇所が18箇所存在。 ・大野油坂道路の整備により、異常気象時事前通行規制区間や平面線形の厳しい現道の通行を避けるとともに、事業区間内における異常気象時の交通に確保が期待。 ④観光周遊機能の向上 ・中部縦貫自動車道（永平寺大野道路）の開通に伴い、沿線地域の観光客数が大幅に増加。 ・永平寺大野道路沿線にある「恐竜博物館」は多方面から観光客が来訪している一方で、大野油坂道路の沿線の「道の駅 九頭竜」に訪れる観光客は中京地域に集中し、周遊コースが連続していない状況。 ・大野油坂道路の開通により、東西の周遊機能が向上し、大野油坂道路沿線の観光施設等への観光客数の増加が期待。 ⑤高度医療機関へのアクセス向上				

- ・大野市役所和泉支所周辺から第三次救急医療施設の福井県立病院には、永平寺大野道路を利用して救急搬送。
- ・大野油坂道路の開通により、搬送時間の短縮、定時性の確保、走行時の揺れの減少による患者、救急隊員の負担軽減が期待。

関係する地方公共団体等の意見

地域から頂いた主な意見等

- ・令和4年8月 大野・勝山地区広域行政事務組合（勝山市長、大野市長、大野・勝山地区広域行政事務組合議長、副議長）より、早期開通の要望を受けている。
- ・令和4年10月 中部縦貫自動車道大野油坂道路整備促進連絡協議会（大野市長、大野市議会議長、大野商工会議所会頭、大野市区長連合会会長他）より、早期全線開通の要望を受けている。
- ・令和4年11月 中部縦貫・北陸関東広域道路建設促進同盟会（岐阜県、福井県、石川県、富山県、長野県、山梨県）より、整備促進の要望を受けている。
- ・令和4年11月 福井県議会高規格道路建設促進議員連盟より、早期全線開通の要望を受けている。
- ・令和4年11月 中部縦貫自動車道建設促進福井県協議会（福井県、福井市、大野市、勝山市、永平寺町）より、早期全線開通の要望を受けている。

福井県知事の意見

一般国道158号大野油坂道路の対応方針（原案）案「事業継続」については、異存ない。

大野油坂道路は、太平洋側と日本海側を連結する広域道路ネットワークの一部であり、災害時には広域的な迂回路として大きな効果を発揮するとともに、中京圏・関西圏と北陸圏を結び、産業・観光振興等に大きく寄与する極めて重要な道路である。そのため、令和8年春と示されている全線の開通について、1日でも早く実現いただきたい。

また、事業費を精査されている大野油坂道路（和泉・油坂区間）について、今後、事業費増が生じるのであれば、その規模や要因を早急に示していただくとともに、突発的に事業費増が生じる事態を防ぐため、事業費等の監理体制の更なる改善をお願いしたい。

事業費増は県の財政運営に与える影響が大きいことから、コスト縮減を図るとともに、交付税措置率の高い「国土強靱化」予算を増やすなど、地方負担の軽減を図っていただきたい。

事業評価監視委員会の意見

審議に結果、「一般国道158号大野油坂道路（和泉・油坂区間）」の再評価は、当委員会に提出された資料、説明の範囲において、おおむね適切であり、対応方針（原案）のとおり「事業継続」することが妥当と判断される。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

沿線地域は、人口は減少傾向にあるが、自動車保有台数は増加傾向にあり、自動車への依存が高い傾向は当初計画時点と大きな変更はなく、事業採択の際の前提となっている需要の見込みや地元情勢の変化等に大きな変更はない。

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成24年度事業化、用地進捗率100%、事業進捗率47%（令和4年3月末時点）

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

引き続き、事業を推進し、早期の開通を目指す。

施設の構造や工法の変更等

事業の実施にあたり、新技術・新工法の活用等によりコスト縮減に努める。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

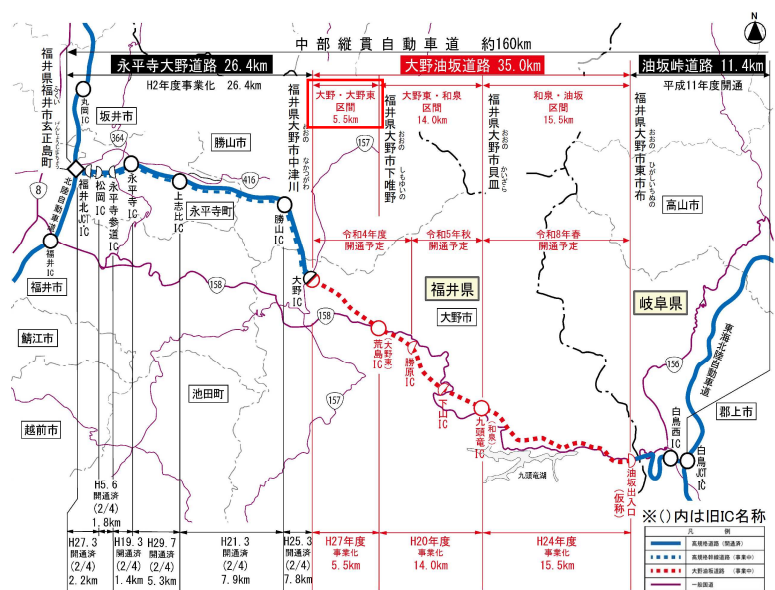
以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

# 事業概要図

## 【位置図】



## 【概要図】



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。

※総費用及び総便益の値は、表示桁数の関数で内訳の合計と一致しないことがある。

※B/Cは一体評価での値で、括弧内は個別評価の値である。